

京都産業大学

ことばの科学研究センター

2025 年度 第 3 回研究会

7 月 23 日（水） 14:00～16:00
4 号館 2 階総合学術研究所会議室

アンテルモ・セヴェリーニによる
『竹取物語』の語源解説の翻訳の試み
宮坂 真紀（文化学部助教）

1880 年にフィレンツェで出版された *Il Taketori Monogatari ossia La fiaba del nonno tagliabambù* はヨーロッパの言語による『竹取物語』の翻訳の中で最も早いもののひとつである。訳者アンテルモ・セヴェリーニはイタリアの高等教育機関で初めて日本語講座を担当した東洋学研究者として知られている。優れた言語学者でもあったセヴェリーニは『竹取物語』で多用される複雑なことば遊びに高い関心を示した。本発表では『竹取物語』における語源解説（世間一般に知られていることばの語源を『竹取物語』の作者が独自の解釈で物語に関連づけて説明したもの）の翻訳を精査し、翻訳上の工夫や課題を検討することで、19 世紀のイタリアにおける日本語・日本文化理解の一端を明らかにする。

僕らが「ワクワクする」理由：
オノマトペ動詞の分類と多様性に関する一考察
臼杵 岳（共通教育推進機構准教授）

影山（2021）は、オノマトペ動詞（「オノマトペ＋する」）を 7 タイプに分類し、事象叙述、属性叙述に加え新たに身体感覚叙述が存在すると提案している。本発表では、オノマトペ動詞の意味的な多様性と項構造の統語的な具現化の観点から、影山分類を再考する（Akita (2010), 多田 (2010), 臼杵 (2024)）。また、オノマトペ動詞の分析から動詞の項構造の具現化に関する「様態・結果の相補性仮説」に関して新たな知見を得られる可能性を探求する（Rappaport Hovav and Levin (2010), 臼杵 (2015, 2016)）。